

『今日は、東円寺の絵札の話であったな。東円寺の牛玉は、富士山頂に来迎する阿弥陀様・観音様・勢至菩薩様の三尊を表したもので、総称は阿弥陀三尊と言われておる。この阿弥陀三尊の下部には、「富士山」の文字を太文字で描き、蓮台に富士山が乗ったような格好になっているんじゃ。蓮台の横には、二猿が富士山を仰ぐような顔の向きで合掌しているんじゃよ。』

『牛玉という絵札は、どのくらい前から配られていたでまっすん？』

『元和4年(1618)の刻銘をを持つ版木があると聞くから、江戸時代初期頃には広まっていたと推測されるんじゃ。そもそも、牛玉というのは、牛玉法印(ごおうほういん)の発展したものなんじゃよ。牛玉法印とは、寺院・神社から信徒に頒布された護符の一種なんじゃ。用法としては家の戸口に貼ったり水田の水口に立てたりして除災招福を祈ったんじゃよ。牛玉法印は鎌倉時代の後半頃、神社から発行されたんじゃが、富士山の牛玉法印がいつ頃始まったのかは明らかになっていないんじゃが、富士山牛玉は、牛玉法印の発展したものとして明らかなんじゃ。』

『絵札の歴史を紐解くだけでも、たくさんの発見があるでまっすん。けれども、いつの時代も変わらないことは、人は幸福になるために、神仏に祈りを捧げたということだまっすん。』

『そうじゃな。人間は、時として自分の力だけで生きてると勘違いしてしまうことがあるんじゃよ。そういうわしも同じじゃがな。しかし、自然の恵みがなければ、人間に限らず動植物は生きていけないんじゃよ。太陽が昇らなかつたらどうなるんじゃろうな。月がなかつたら・・・東円寺の版木には、日月(太陽と月)は描かれていないんじゃが、描かれた絵図もあるんじゃよ。昔の人々は、現代のように科学としての認識はなくても、自然の摂理を理解していたんじゃろうな。現代は科学が発展し、自然現象を理屈では分かっていても、自然に対する畏敬の念を忘れてしまっているんじゃよ。自然に感謝することは、とても大切なことだと思っすんじゃよ。』

『そうでまっすん。感謝を忘れないでまっすん。あっ！講左衛門さん、忘れていた質問があるでまっすん。牛玉に猿が描かれているのはどういう意味でまっすん？』

『来年は、申年じゃな。猿にまつわる話はたくさんあるからのう。猿の話は、次回たっぷり話そうと思っておるぞ。』

『それは、楽しみでまっすん。今年もたくさんの話を聞かせてもらってありがとうございます。来年もよろしく頼むでまっすん。』

『一年はあっという間じゃったな。来年が、皆さんにとって良き年となられるよう心から祈っておるぞ。おっ！忘れておった。12月9日に、聖観音様と大日如来様が無事お戻りになったぞ。多くの方のお参りを待っておるぞ。』

クニマッスン  
出生地 忍野村  
山梨県水産技術センター  
□癖 でまっすん...



『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定  
年末休刊のお知らせ

12月27日(日)はお休みさせていただきます。

ふじのだいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳  
職業 大我講の先達  
(先達とは案内責任者)